

「川崎市の人口動態（平成20年）」の発行について

「川崎市の人口動態」は住民基本台帳法及び外国人登録法の届出による動態を表したものです。自然増減（出生、死亡）及び社会増減（転入、転出）の側面から、平成 20 年 1 年間（暦年）の人口増減について概要をまとめましたので、次のとおりお知らせします。

なお、この内容については、本日以降に川崎市ホームページに掲載いたします。

●概要《人口増加数は 20,130 人で、2 年連続 2 万人超え》

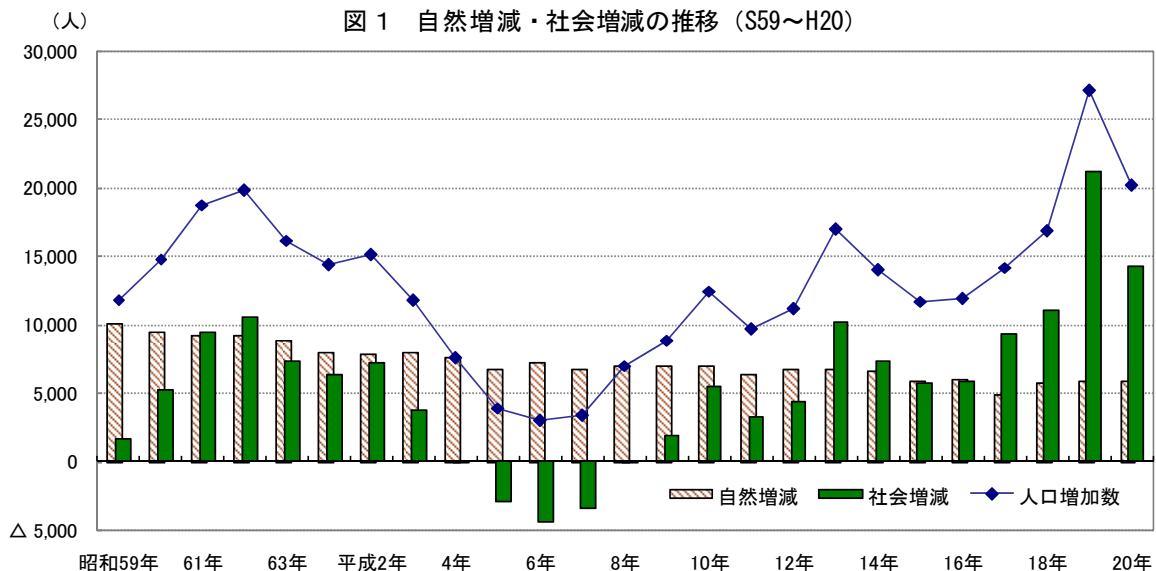
平成 20 年 1 年間の本市の人口増加数は 20,130 人で、前年の増加数 27,050 人を 6,920 人下回りましたが、**2 年連続で 2 万人を超えました**。増加数の内訳としては、自然増が 5,870 人、社会増が 14,260 人となっています。

人口増加数の推移をみると、平成 3 年から平成 6 年にかけて増加幅が縮小していましたが、平成 9 年以降社会増減がプラスに転じると、人口増加数も平成 12 年以降は 1 万人以上を維持し、平成 19 年には 2 万 7 千人を超えました。

自然動態をみると、平成 18 年以降 3 年連続で増加しています。社会動態をみると、転出者は前年と比べて 1,017 人減少しましたが、転入者が 7,965 人と大幅に減少したことが影響し、全体では前年の 21,208 人を 6,948 人下回る 14,260 人増となっています。（本文 1 頁）

表 1 人口増加数の推移（H元～H20）

年 次	人口増加数 a + b	自然増減 a	社会増減 b	区 別 人 口 増 加 数						
				川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
平成 元 年	14 330	8 052	6 278	1 346	△ 413	1 823	2 034	2 662	4 172	2 706
2 年	15 097	7 933	7 164	1 989	△ 595	1 000	2 424	3 962	3 785	2 532
3 年	11 793	8 007	3 786	871	△ 3	1 479	1 896	2 314	2 728	2 508
4 年	7 542	7 620	△ 78	△ 129	△ 222	1 378	1 533	744	3 407	831
5 年	3 888	6 823	△ 2 935	△ 1 436	△ 99	813	598	774	2 219	1 019
6 年	2 936	7 323	△ 4 387	△ 2 182	△ 1 570	△ 92	1 440	2 533	1 635	1 172
7 年	3 325	6 747	△ 3 422	△ 1 111	△ 1 408	133	1 946	2 816	198	751
8 年	7 011	7 044	△ 33	△ 1 303	△ 1 676	881	2 146	3 902	2 261	800
9 年	8 867	6 962	1 905	85	△ 921	1 418	1 640	3 177	1 582	1 886
10 年	12 452	6 973	5 479	59	△ 595	2 508	1 705	3 596	2 463	2 716
11 年	9 625	6 404	3 221	△ 191	1 065	604	2 230	1 278	2 275	2 364
12 年	11 165	6 800	4 365	1 442	△ 214	1 077	3 768	2 100	731	2 261
13 年	16 929	6 786	10 143	1 725	1 338	3 500	4 218	1 185	2 290	2 673
14 年	13 942	6 675	7 267	2 263	1 625	2 039	3 509	1 115	1 887	1 504
15 年	11 710	5 949	5 761	2 463	1 344	844	2 629	1 765	1 041	1 624
16 年	11 871	6 059	5 812	1 474	1 282	1 382	4 528	1 570	87	1 548
17 年	14 185	4 911	9 274	884	2 185	4 323	1 689	664	731	3 709
18 年	16 811	5 762	11 049	2 411	387	4 013	4 301	1 414	570	3 715
19 年	27 050	5 842	21 208	4 925	2 850	5 388	4 933	2 915	2 051	3 988
20 年	20 130	5 870	14 260	2 416	3 252	5 584	1 216	2 393	2 294	2 975

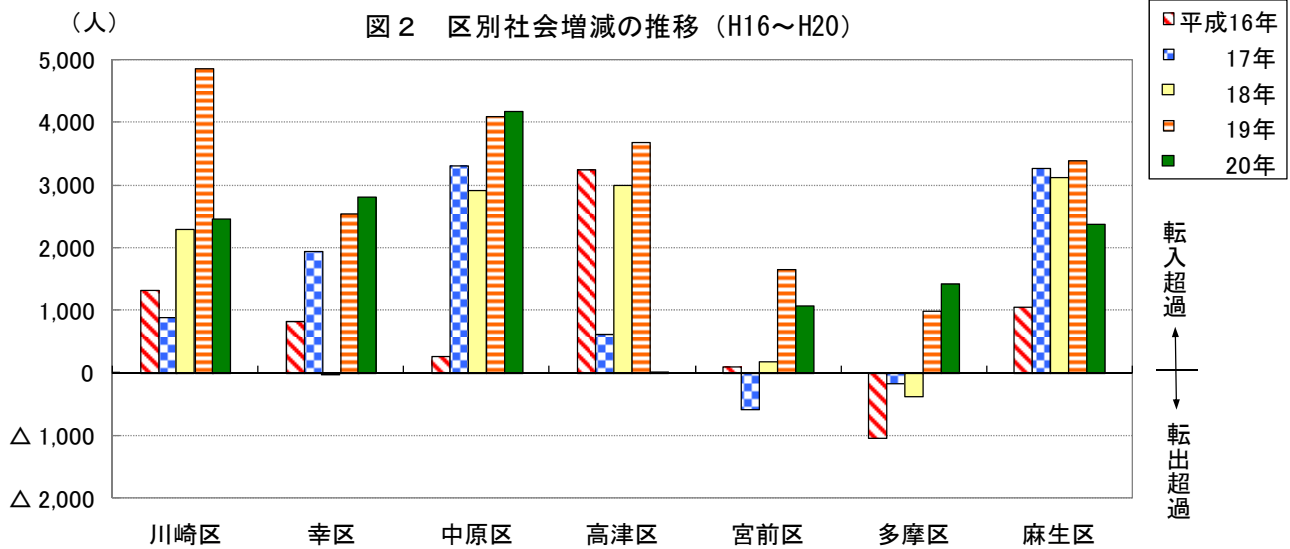


## ● 《社会動態は2年連続全区で転入超過》

区別の人口動態をみると、増加数は中原区が最も多く、次いで幸区、麻生区となりました。自然動態は、川崎区で自然減となった以外は、すべての区で自然増となっています。社会動態は、政令指定都市移行後初めてすべての区において転入超過となった前年に引き続き、平成20年も全区で転入超過となりました。高津区は15年連続、麻生区は13年連続で転入超過の状態が続いています。（本文2頁）

表2 区別人口動態（H20）

	全 市	川 崎 区	幸 区	中 原 区	高 津 区	宮 前 区	多 摩 区	麻 生 区
人口増△減	20 130	2 416	3 252	5 584	1 216	2 393	2 294	2 975
自然増△減	5 870	△ 28	458	1 420	1 205	1 333	879	603
男	2 485	△ 232	184	692	562	620	410	249
女	3 385	204	274	728	643	713	469	354
社会増△減	14 260	2 444	2 794	4 164	11	1 060	1 415	2 372



## ● 《20代の転入超過数が多い》

年齢5歳階級別の社会動態をみると、10歳から59歳までと65歳から90歳以上までの各階級で転入超過となっています。転入超過数が最も多い階級は「20～24歳」で、次に「25～29歳」となっており、転入超過者総数のうち20代が7割以上となっています。（本文3頁）

